

令和 3 年 8 月 22 日現在

機関番号：34511

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K17457

研究課題名(和文) 2型糖尿病患者への治療中断防止の支援モデルの開発

研究課題名(英文) Development of a Support Model for Prevention of Treatment Interruption for Type 2 Diabetes Patients

研究代表者

奥井 早月 (OKUI, SATSUKI)

神戸女子大学・看護学部・助教

研究者番号：00783002

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、治療を継続している2型糖尿病患者の療養行動に対して意味づけを明らかにすることを目的とした。結果、治療を継続している2型糖尿病患者は、＜自分のこととして糖尿病を受け入れる＞ができ、＜一緒に責任を担ってくれる人がいる＞がいる。＜身体感覚と検査値が一致する＞ことで＜試行錯誤を行う＞ことで療養を継続していた。一方で、療養行動が継続できるようになるまでの過程では、糖尿病の症状がなく、＜自分のこととして糖尿病が捉えられない＞中で、糖尿病の悪化を周囲の人から＜自己責任で片づけられる＞中で、＜検査値に一喜一憂していた＞ことが振り返られ、＜言われた通りにする＞ことを行っていたと語られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

2型糖尿病患者の治療中断率は26%で、初診から1年以内に約70%、治療中断回数が2回以上の患者は約65%にもなるが、治療中断者を防止する支援は構築されていない。2型糖尿病患者は症状が乏しいこともあり、他疾患より治療中断率は高い。糖尿病は多くの循環器系疾患の基盤となっているため、2型糖尿病の治療中断を防止することで国民医療費の抑制にも貢献できる。治療中断を防止することは、将来的には合併症予防にも貢献でき、患者の健康寿命の延伸に貢献できる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to clarify the meaning-making for the treatment behavior of type 2 diabetes patients who are continuing treatment. As a result, type 2 diabetic patients who are continuing treatment are able to "accept diabetes as their own" and have "someone who can take responsibility with them." <They were able to "accept diabetes as their own business" and "have someone who takes responsibility with them. On the other hand, in the process until she was able to continue her medical treatment, she had no symptoms of diabetes and "could not understand diabetes as her own problem. She said that she had been doing what she was told.

研究分野：慢性看護学

キーワード：糖尿病 ナラティブ

1. 研究開始当初の背景

国内の糖尿病患者数は約 950 万人と推定され、そのうち治療を受けている者は約 65% であり、治療を受けたことがない、もしくは中断中の患者数は約 35% である。治療を受けていた糖尿病患者のうち、約 10% が 1 年間に治療を中断していることも明らかになっている。しかし、治療継続率は 46.4% に留まっており、2 型糖尿病患者の治療中断は問題であり、治療中断に至る患者への支援が必要である。

2 型糖尿病患者の治療中断に関する複数の先行研究から、治療中断率は 26% であり、男性が 29%、女性が 20% で、男性の方が治療中断率は高かった。また、中断した回数は 1 回が 35%、2 回以上が 65% と報告されている。

申請者の実施した、「治療を中断したことのある 2 型糖尿病患者の病いの体験」の研究では、患者自身の生き方の方向づけをしている「関心」が、治療中断の重要要因であることが明らかとなった。医療者の視点から見れば、治療中断という行動は誤った意味づけによるものと考えられるが、患者は治療を中断することに患者なりの意味づけをしており、治療中断している間も患者なりの療養行動を実施していることが明らかになった。

2. 研究の目的

本研究は、治療中断を防止する支援モデルの開発を目指し、治療を継続している 2 型糖尿病患者が、療養行動に対して意味づけするための要素を明らかにすることを目的とする。患者は、療養行動に対して患者なりの意味づけをしているが、治療中断中の患者と治療を継続している 2 型糖尿病患者では、療養行動に異なった意味づけをしている。治療を継続している 2 型糖尿病患者が療養行動に対して意味づけするための要素を明らかにすることで、治療中断リスク要素が明らかになり、治療中断を防止する支援が出来ると考えられる。そこで、治療を継続していくための療養行動の意味づけの特徴として、どのような要素があるのかを明らかにする。

3. 研究の方法

本研究では、治療を継続している患者を対象に、1 人あたり 60～90 分、1～2 回の半構造化面接を実施した。今回は患者の療養行動に対する意味づけを明らかにするため、面接を実施する看護師を設定した。面接実施する看護師の条件は、慢性疾患看護専門看護師もしくは糖尿病認定看護師とした。そのため、慢性疾患看護専門看護師と糖尿病認定看護師を対象にスノーボール形式で選定した。面接を受ける患者の条件は、以下の条件を全て満たす 2 型糖尿病患者とする。受診もしくは治療(薬物療法)を中断したことがない、糖尿病問題領域質問表：PAID が 100 点満点中 60 点未満(60 点以上は糖尿病負担感がありと判断する)、6 ヶ月以上 HbA1c が 8.0% 未満とした。

4. 研究成果

9 名の患者にどのように今まで療養してきたのかを経時的に語ってもらうことを行った。療養当初の患者は、糖尿病と診断されて【自分のこととして糖尿病を受け止められない】ことで、【検査値に一喜一憂する】ことや、医療者や周囲の人から糖尿病が悪化すると【自己責任で片づけられる】ことから、【言われた通りにする】といった療養行動をおこなっていた。しかし、<一緒に責任を担ってくれる人がいる>、<一緒に考えてくれる人がいる>こ

とや、＜身体感覚と検査値が一致する＞することで＜自分のこととして糖尿病を受け入れる＞ことができ、＜一歩先を見せてくれる人がいる＞と＜糖尿病の怖さを認識できる＞ようになることをきっかけに、主体的に療養行動に取り組むようになった。そうすると、＜素直に人の話をきく＞ようになり、＜過去を振り返る＞ことや＜未来を想像する＞中で＜試行錯誤をする＞ようになり、＜自分なりのルールをもつ＞、＜自分のリズムをもつ＞ようになり、＜自分が納得する＞ことをしながら＜あまり考え込まない＞、＜立ち止まらない＞、＜クリアする＞ことを行っていた。一方で、＜頭の隅に糖尿病がある＞ため、＜状況をみて調整する＞ことも行っていた。以上より、治療を継続している2型糖尿病患者は、【自分のこととして糖尿病を受け入れる】ことができ、【一緒に責任を担ってくれる人がいる】中で、【身体感覚と検査値が一致する】ことで【試行錯誤を行う】ことができていた。また、治療を継続している患者は、血糖値やHbA1cが安定している現在も、【試行錯誤を行う】ことをしながら療養を継続していることが明らかになった。一方で、療養行動が継続できるようになるまでの過程では、糖尿病の症状がなく、【自分のこととして糖尿病が捉えられない】、糖尿病の悪化を周囲の人から【自己責任で片づけられる】中で、【検査値に一喜一憂していた】ことが振り返られ、【言われた通りにする】ことを行っていたと語られた。

糖尿病は慢性疾患であり、患者の生活にとって糖尿病は極めて侵襲的であり、生活そのものが療養となる。そのため患者は自身が主体となって療養していくことが求められるが、患者が主体的に療養していくためには、【自分のこととして糖尿病を受け入れる】【一緒に責任を担ってくれる人がいる】【身体感覚と検査値が一致する】【試行錯誤を行う】の4要素が育まれるような介入が重要であると考えられる。患者の療養行動は、医療職や周囲の人の患者への関わり方が大きく影響しており、患者に行動変容を求めるばかりではなく、医療者や周囲の人の行動変容も必要である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 奥井早月
2. 発表標題 治療を継続している2型糖尿病患者の療養行動に対して意味づけ
3. 学会等名 日本慢性看護学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奥井早月
2. 発表標題 治療を継続している2型糖尿病患者の療養行動に対する負担感
3. 学会等名 日本看護研究学会 第32回近畿・北陸地方会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奥井早月
2. 発表標題 治療を継続している2型糖尿病患者の療養行動に対して意味づけ
3. 学会等名 慢性看護学会第13回学術集会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------